

## 1. 医事職員構成

2010年度の医事室は事務職員4名(内1名は4月～11月まで産休)、委託職員(ニチイ学館)12名(11名は業務委託、1名は派遣)の体制で業務を行った。2011年1月には診療情報管理室を含め3名の職員のローテーションを行った。診療情報管理室専任であった職員を会計窓口へ、会計窓口担当を医事室担当へ、産休から復職後の職員を診療情報管理室専任へと変更した。

## 2. 外来の動き

2010年4月から消化器1名、心臓外科1名の医師が常勤となり消化器内科、循環器内科の2科ともに2人体制での診療となった。しかし、泌尿器科は常勤医が済生会熊本病院へ異動となつたため、週2回と月1回の熊本病院医師派遣での診療体制となつた。また、整形外科は常勤医師が前年度3月末で退職したため、一時熊本病院医師の応援体制となつたが、同医師が復職したため6月からは従来どおりの体制に戻つた。また、新たな事業として毎週水曜日の午後に脳ドックが開始された。

## 3. 病棟の動き

2010年5月に一般病床の需要が高くなつたため、1階の108号室4床を亜急性期病床から一般病床へ変更した。その結果一般病床が74床、亜急性期病床は26床となつた。(1病棟12床・3病棟14床)届出としては一般病棟及び亜急性期病床両方の病床数変更としての施設基準の変更申請が必要となつた。

病床利用率は一般病棟84.0%、亜急性期病床89.1%、回復期リハビリテーション病棟78.3%、全体では83.3%となり、前年度比+2.3%であった。最高は1月の91.5%、最低は5月の72.9%となつた。

## 4. 診療報酬改訂

2010年4月に診療報酬改訂が実施された。10年ぶりのプラス改訂であった。今回の改訂で当院でプラスとなった項目は一般病棟関係では、新設された「急性期看護補助体制加算」、「一般病棟看護必要度加算」であった。また、入院早期加算(14日以内)も点数が引き上げられた。特定入院料では回復期リハビリ病棟入院料が基準の変更があり点数が引き上げられた。がん治療についても新設項目があり、当院でも「がん治療連携指導料」の申請を行つた。全職員対象の診療報酬改訂説明会を3月24日(木)に行つた。

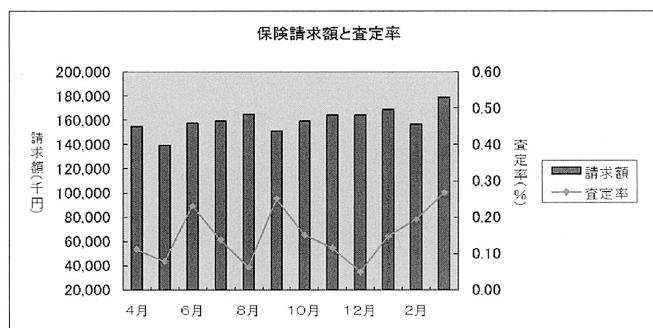
今年度取得施設基準項目	承認日	備考
急性期看護補助体制加算1	2010年4月1日	
一般病棟看護必要度加算	2010年4月1日	
回復期リハビリテーション病棟入院料1	2010年4月1日	基準変更のため再申請
がん治療連携指導料	2010年4月1日	
がん性疼痛緩和指導管理料	2010年4月1日	

## 5. 九州厚生局適時調査

九州厚生局熊本事務所から12月21日(火)に審査員5名(担当事務官4名、保健指導看護師1名)の訪問調査を受けた。調査項目は入院基本料、施設基準の届出事項、入院食事療養基準、入院環境等であった。各部署の協力で指定された提出資料を作成し、調査を受けた。調査結果が翌2011年1月11日付けで届き、改善項目が10項目ほどあつたが、返還等に関わる大きな問題点はなかつた。指摘事項の改善書を作成のうえ九州厚生局へ提出した。

## 6. 保険請求と査定

保険請求額は入院外来合わせて今年は前年の約4%増となつた。査定の傾向としては前年度同様禁忌薬の査定及び内服薬の7剤以上過減への査定が多くみられた。また、2011年1月からは国保から特定入院料と同暦月の手術後管理料が査定され高額査定となつた。査定率は月により格差がみられたが平均で0.15%となり昨年に比べやや高くなつた。



## 7. 集団検診後の精密検査の実施

今年度の精密検査の受診者数は前年より101名増加し282名であった。今年度は特に基本検診、大腸検査での精密検査が多かつた。下のグラフは過去4年間の精密検査の実績である。

